

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K09966

研究課題名(和文) シェーグレン症候群発症の分子機構と制御

研究課題名(英文) Molecular mechanism and regulation in patients with Sjogren's syndrome

研究代表者

住田 孝之 (Sumida, Takayuki)

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号：00183054

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：シェーグレン症候群(SS)の発症機序において、病因細胞であるM3R反応性Th1細胞の抗原特異性を維持したまま、制御機能をもったTreg細胞へ機能チェンジする誘導分子を検索し、創薬化することを目的とした。その結果、M3R反応性Th1細胞からT-iPS細胞への作成、T-iPS細胞からDC細胞への分化誘導、T-iPS細胞からCD34+CD43+細胞への分化誘導に成功した。今後、T-iPS細胞からCD4+Treg細胞へ分化誘導することに成功できれば、SSの病因細胞であるM3R反応性Th1細胞を制御機能を持ったTreg細胞へ機能転換する分子を検索することができよう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

シェーグレン症候群(SS)は、ドライアイやドライマウスだけでなく全身の臓器病変を生じる自己免疫疾患である。全身の臓器病変に対する治療は、ステロイドや免疫抑制薬が主体であり、副作用として感染症、悪性腫瘍、生活習慣病、骨粗鬆症などを合併し、QOLの低下が起きてしまうことが問題となっている。本研究の意義は、SSの発症機序に基づいた治療戦略を開発するため、副作用のない疾患特異的な治療薬が創薬され患者さんのQOLの向上が期待されることである。

研究成果の概要(英文)：M3R reactive Th1 cells play a crucial role in the generation of Sjogren's syndrome(SS). In the present study, our object is to clarify the molecules which are able to change Th1 cells to Treg cells. We already generated several T-iPS cells from M3R reactive Th1 cells in patients with SS, induced DC cells from their T-iPS cells, and differentiated CD34+CD43+ progenitor stem cells from T-iPS cells in vitro. In future, we will differentiate CD34+CD43+ cells to Treg cells, and then elucidate the functional molecules which could change from Th1 cells to Treg cells. The candidate molecules should shed light on the new therapeutic approach to SS.

研究分野：膠原病学

キーワード：シェーグレン症候群 Th1細胞 Treg細胞 iPS細胞 ムスカリン作動性アセチルコリン受容体3 T細胞 抗原受容体 T細胞機能転換分子

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

- (1) シェーグレン症候群(SS)は、口腔内乾燥感、乾燥性角結膜炎、関節炎を主症状とする全身の炎症性疾患であり、厚労省特定疾患の一つに認定されている免疫難病である。
- (2) 病因として各臓器に浸潤した CD4 陽性 T 細胞による自己免疫反応が注目されている。この自己反応性 T 細胞の抗原受容体 (TCR) 及び対応自己抗原を明らかにすることは、SS の発症機序を解明する上で重要である。申請者らは、SS 患者の各臓器浸潤 T 細胞の TCR 遺伝子及び対抗自己抗原に関して、分子免疫学的戦略を用いて以下の事実を明らかにしてきた。
- (3) 口唇唾液腺、涙腺、腎間質に浸潤した T 細胞は、特定の抗原を認識して抗原特異的に増殖している。
- (4) 口唇唾液腺浸潤 T 細胞が認識する対応自己抗原は、臓器非特異的自己抗原として SS-A52kD、HSP10/60、唾液腺特異的自己抗原として α アミラーゼとムスカリン作働性アセチルコリン受容体 M3 (M3R) である。
- (5) SS 患者の約半数において、M3R を認識する IFN- γ を産生する Th1 細胞及び IL-17 を産生する Th17 細胞が存在する。
- (6) M3R ペプチドを M3R ノックアウトマウスに免疫し、その脾細胞を Rag1 ノックアウトマウスに移入することにより (M3R-/- \rightarrow Rag1-/-マウス)、M3R 誘導自己免疫性唾液腺炎 (M3R induced sialadenitis, MIS) を発症するマウスモデルを樹立した。M3R-/-xIFN γ -/- \rightarrow Rag1-/-マウス、M3R-/-xIL-17-/- \rightarrow Rag1-/-マウスを作成し、これらのマウスを用いて MIS を誘導した結果、IFN- γ 及び IL-17 がともに自己免疫性唾液腺炎発症に係わっている事を明らかにしてきた。
- (7) M3R 抗原の T 細胞エピートープが N 領域及び細胞外第一ドメインにあることを証明し、そのアナログペプチドを用いて MIS の抑制に成功した。
- (8) 以上の研究成果から、M3R 反応性 Th1 及び Th17 細胞が SS の発症に重要な役割を果たしている事を明らかにしてきた。

2. 研究の目的

本研究では、SS 患者から M3R 反応性 T 細胞 (Th1、Th17) を分離し、iPS 細胞化する (T-iPS)。次に T-iPS 細胞を *in vitro* で抑制性 T 細胞 (Treg) に分化誘導する。iPS 細胞を利用することにより同一 TCR を有する M3R 反応性 T 細胞の機能転換 (Th1、Th17 \rightarrow Treg 細胞) が可能である。Th1、Th17、Treg 細胞の発現遺伝子に関して網羅的に解析することにより Treg 細胞への機能転換分子を検索する。得られた分子の機能を *in vitro* における分化誘導系において、Th1 \rightarrow Treg 細胞、Th17 \rightarrow Treg 細胞への機能転換分子であることを確認し、分子自身あるいは誘導分子を対象とした発症機序に基づく新規創薬の開発を進める。

このように、本研究プロジェクトにおいては、SS 患者由来自己反応性 T 細胞を iPS 細胞化することにより、病気を誘導する T 細胞を、病気を抑制する制御性 T 細胞に機能転換する分子を検索し新規治療戦略を開発する。

本研究において、T-iPS 細胞を利用する最大のメリットは、SS の病因として重要な M3R 反応性 T 細胞の抗原受容体 (TCR) 遺伝子を T-iPS 細胞を介して保持することにより、同じ抗原特異性を有する T 細胞を対象として、細胞の機能転換分子の解析が可能となる点である。

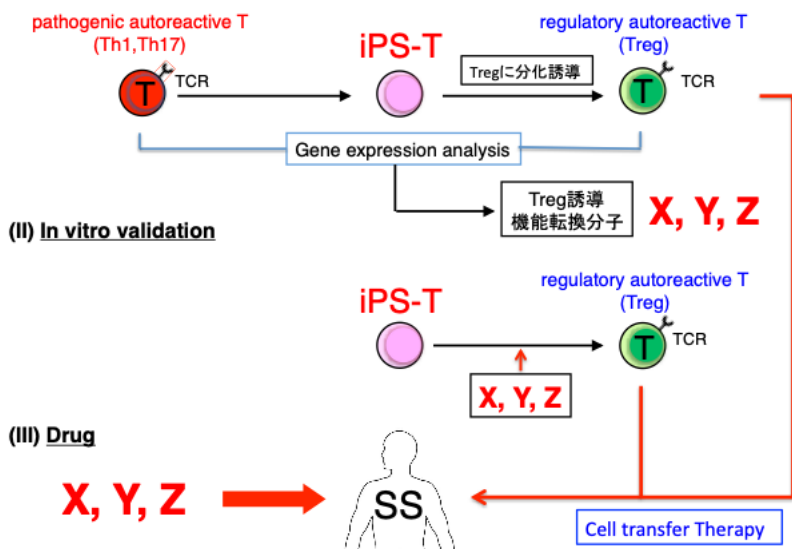
3. 研究の方法

SS 患者末梢血単核球から Th1 細胞及び Th17 細胞を flowcytometry 法により single cell として分離し、M3R 抗原を用いて M3R 反応性 Th1 細胞クローン及び Th17 細胞クローンを作成する。樹立したクローンに対して山中 4 因子を用いて T-iPS 細胞を作成する。T-iPS 細胞から Treg 細胞へ分化誘導する条件を検討し Treg 細胞に分化誘導する。T-iPS 細胞から樹立した Treg 細胞の M3R 反応性及び TCR 遺伝子解析を行い、オリジナルの M3R 反応性 Th1 細胞及び Th17 細胞由来であることを検証する。Th1 細胞あるいは Th17 細胞クローンと、T-iPS 細胞を介して誘導分化した Treg 細胞を対象として DNA microarray 法を用いて、Th1 \rightarrow Treg 細胞、Th17 \rightarrow Treg 細胞への機能転換分子を検索する。

4. 研究成果

SS

(I) Gene expression analysis



- (1) SS 患者末梢血単核球より M3R 反応性 Th1 細胞 (M3RTh1) 及び Th17 細胞 (M3RTh17) を flowcytometry により single cell として分離する。Auto-LCL 細胞 (Auto-lymphoblastoid cell line) を作成して feeder 細胞として使用する。M3R 抗原及び PHA を加えて Th1 細胞及び Th17 細胞クローンを in vitro において樹立する。それぞれのクローンにおける TCR 遺伝子配列を決定するために、TCR β 鎖に関しては、23 個の V β 特異的な 5' プライマーを作成し、C β を 3' プライマーとして、family PCR 法で使用 V β 鎖を確定した後、シーケンス法により CDR3 領域の核酸塩基配列を解析する。TCR α 鎖に関しては、30 個の V α 特異的な 5' プライマーを用いて C α 間で family PCR を施行し V α 鎖を決定した後、シーケンス法により CD3 領域の核酸塩基配列を確定する。(筑波大学)
- (2) (1) で分離した M3RTh1 及び M3RTh17 細胞クローンから、山中 4 因子を用いて T-iPS 細胞 (T-iPSM3RTh1、T-iPSM3RTh17) を樹立する。細胞の維持方法は、MEF (マウス胚繊維芽細胞) を feeder 細胞として、リコンビナント bFGF を加えた DMEM 培地において培養する。(東京大学医科学研究所との共同研究)
- (3) (2) で樹立した T-iPSM3RTh1 及び T-iPSM3RTh17 細胞を in vitro において CD4⁺T 細胞に分化誘導する (T-iPSM3RTh1 \rightarrow Treg、T-iPSM3RTh17 \rightarrow Treg)。Feeder 細胞としては、C3H10T1/2 細胞を用い、その後、OP9-DL1 細胞を使用し、添加するサイトカインとしては、VEGF \rightarrow SCF + IL7 + Fit3L 等を使用する。さらに、Treg 細胞への分化条件は conditioning を検討する必要があるが、基本的に、TCF- β などを加えること、あるいは、Notch ligand を発現した OP9-DL1 細胞株上で T-iPS 細胞を培養し、TGF- β + レチノイン酸等を追加する。以上の方法により樹立した T-iPS 細胞に関して、M3R 反応性及び TCR の遺伝子配列を確認する。(筑波大学、東京大学医科学研究所) [筑波大学より助教を派遣]
- (4) (3) で分化誘導した T-iPSM3RTh1 \rightarrow Treg 細胞と M3RTh1 細胞クローン間において、DNA array 法を用いて、Th1 \rightarrow Treg 細胞への機能転換分子を選定する。同様に、T-iPSM3RTh17 \rightarrow Treg 細胞と M3RTh17 細胞クローン間において、DNA array 法を用いて、Th17 \rightarrow Treg 細胞への機能転換分子を選定する。(筑波大学)
- (5) (4) で選定した Treg 細胞への機能転換分子あるいは誘導分子を用いて、M3RTh1 細胞クローン及び M3RTh17 細胞クローンが実際に Treg 機能細胞に分化する事を検証する。(筑波大学)
- (6) (5) で検証できた機能転換分子あるいは誘導分子に関して、創薬化を目指す。(筑波大学)

4. 研究成果

- (1) SS 患者 (HLA-A24, A31, DRB1 14:54, DRB1 15:02) 末梢血から M3R 反応性 Th1 細胞 (IFN- γ 産生) をフローサイトメトリー法を用いて分離し、35 個のクローンを樹立した。
- (2) (1) で樹立した 5 個の Th1 細胞クローンに山中 4 因子をセンダイウイルスを用いて遺伝子導入し、8 個の T-iPS 細胞株を樹立した。

- (3) 樹立した T-iPS 細胞が有する TCR 遺伝子が、iPS 細胞化する前の Th1 細胞クローンと同一の再構成した TCRV β 遺伝子、TCRV α 遺伝子であることを sequence 法で確認した。
- (4) T-iPS 細胞から Sac 法を用いて CD34+細胞を誘導し、GM-CSF/M-CSF で 14 日、次に GM-CSF/IL-4 で 7 日刺激を加えることで DC 細胞への分化誘導に成功した (Stem Cell Reports 2017)。この細胞を用いることにより T-iPS 細胞の in vitro における分化誘導に使用可能となった。
- (5) T-iPS 細胞を in vitro で CD34+CD43+細胞に分子誘導し、NSG マウスに細胞移入することにより 60 日目のマウス末梢血においてヒト由来 CD4+T 細胞への分化を確認することができた。現在、その CD4+T 細胞の表現型などを解析中である。
- (6) T-iPS 細胞をマウス皮下に移植することにより teratoma を形成した。teratoma 内で分化した CD34+CD43+細胞を NSG マウスに細胞移入することで CD4+T 細胞への分化誘導を試みている。
- (7) 50%の SS 患者末梢血に M3R 反応性 Th17 細胞が存在することを ELI-SPOT 法で明らかにしてきた。M3R 反応性 Th17 細胞を in vitro において抗原と共に培養し、フローサイトメトリー法により分離することに成功した。今後、M3R 反応性 Th1 細胞と同様の方法で T-iPS 細胞を作成する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Miki Haruka, Tahara-Hanaoka Satoko, Almeida Mariana Silva, Hitomi Kaori, Shibagaki Shohei, Kanemaru Kazumasa, Lin Yu-Hsien, Iwata Kanako, Miyake Shota, Shibayama Shiro, Sumida Takayuki, Shibuya Kazuko, Shibuya Akira	4. 巻 204
2. 論文標題 Allergin-1 Immunoreceptor Suppresses House Dust Mite-Allergic Airway Inflammation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Immunology	6. 最初と最後の頁 753 ~ 762
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4049/jimmunol.1900180	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Ono Yuko, Tsuboi Hiroto, Moriyama Masafumi, Asashima Hiromitsu, Kudo Hanae, Takahashi Hiroyuki, Honda Fumika, Abe Saori, Kondo Yuya, Takahashi Satoru, Matsumoto Isao, Nakamura Seiji, Sumida Takayuki	4. 巻 26
2. 論文標題 ROR t antagonist improves Sjogren's syndrome-like sialadenitis through downregulation of CD25	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Oral Diseases	6. 最初と最後の頁 766 ~ 777
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/odi.13255	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kudo Hanae, Tsuboi Hiroto, Asashima Hiromitsu, Takahashi Hiroyuki, Ono Yuko, Abe Saori, Honda Fumika, Kondo Yuya, Wakasa Yuhya, Takaiwa Fumio, Takano Makoto, Matsui Minoru, Matsumoto Isao, Sumida Takayuki	4. 巻 -
2. 論文標題 Transgenic rice seeds expressing altered peptide ligands against the M3 muscarinic acetylcholine receptor suppress experimental sialadenitis-like Sjogren's syndrome	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Modern Rheumatology	6. 最初と最後の頁 1 ~ 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14397595.2019.1664368	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kurata Izumi, Matsumoto Isao, Ohyama Ayako, Osada Atsumu, Ebe Hiroshi, Kawaguchi Hoshimi, Kaneko Shunta, Kondo Yuya, Tsuboi Hiroto, Tomioka Azusa, Kaji Hiroyuki, Sumida Takayuki	4. 巻 78
2. 論文標題 Potential involvement of OX40 in the regulation of autoantibody sialylation in arthritis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Annals of the Rheumatic Diseases	6. 最初と最後の頁 1488 ~ 1496
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/annrheumdis-2019-215195	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akizuki S, Ishigaki K, Kochi Y, Law SM, Matsuo K, Ohmura K, Suzuki A, Nakayama M, Iizuka Y, Koseki H, Ohara O, Hirata J, Kamatani Y, Matsuda F, Sumida T, Yamamoto K, Okada Y, Mimori T, Terao C.	4. 巻 78
2. 論文標題 PLD4 is a genetic determinant to systemic lupus erythematosus and involved in murine autoimmune phenotypes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Annals of the Rheumatic Diseases	6. 最初と最後の頁 509 ~ 518
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/annrheumdis-2018-214116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Segawa S, Kondo Y, Nakai Y, Iizuka A, Kaneko S, Yokosawa M, Furuyama K, Tsuboi H, Goto D, Matsumoto I, Sumida T.	4. 巻 201
2. 論文標題 Placenta Specific 8 Suppresses IL-18 Production through Regulation of Autophagy and Is Associated with Adult Still Disease	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Immunology	6. 最初と最後の頁 3534 ~ 3545
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4049/jimmunol.1800667	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sumida T, Takahashi H, Asashima H, Honda F, Abe S, Ono Y, Hirota T, Sano H, Ogawa Y, Tsubota K, Ryo K, Saito I, Tanaka A, Nakamura S, Takamura E, Tanaka M, Suzuki K, Takeuchi T, Yamakawa N, Mimori T, Ohta A, Nishiyama S, Yoshihara T, Suzuki Y, Kawano M, Tomiita M, Tsuboi H, et al.	4. 巻 28
2. 論文標題 Clinical practice guideline for Sjogren 's syndrome 2017	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Modern Rheumatology	6. 最初と最後の頁 383 ~ 408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14397595.2018.1438093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kochi Y, Kamatani Y, Kondo Y, Fujimoto M, Jinnin M, Tanaka Y, Cooper RG, Chinoy H, Rothwell S, Lamb JA, Vencovsky J, Mann H, Myouzen K, Tsuboi H, Fujio K, Amano H, Kohsaka H, Sumida T, Yamamoto K, et al.	4. 巻 77
2. 論文標題 Splicing variant of WDFY4 augments MDA5 signalling and the risk of clinically amyopathic dermatomyositis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annals of the Rheumatic Diseases	6. 最初と最後の頁 602 ~ 611
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/annrheumdis-2017-212149	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kondo Y, Yokosawa M, Kaneko S, Furuyama K, Segawa S, Tsuboi H, Matsumoto I, Sumida T.	4. 巻 70
2. 論文標題 Review: Transcriptional Regulation of CD4+ T Cell Differentiation in Experimentally Induced Arthritis and Rheumatoid Arthritis	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Arthritis & Rheumatology	6. 最初と最後の頁 653 ~ 661
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/art.40398	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iizuka-Koga Mana, Asashima Hiromitsu, Ando Miki, Lai Chen-Yi, Mochizuki Shinji, Nakanishi Mahito, Nishimura Toshinobu, Tsuboi Hiroto, Hirota Tomoya, Takahashi Hiroyuki, Matsumoto Isao, Otsu Makoto, Sumida Takayuki	4. 巻 8
2. 論文標題 Functional Analysis of Dendritic Cells Generated from T-iPSCs from CD4+ T Cell Clones of Sjogren's Syndrome	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Stem Cell Reports.	6. 最初と最後の頁 1155 ~ 1163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.stemcr.2017.04.010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 高橋広行、坪井洋人、瀬川誠司、浅島弘充、安部沙織、工藤華枝、小野由湖、本田文香、近藤裕也、松本功、大津真、住田孝之
2. 発表標題 シェーグレン症候群におけるM3R反応性Th1細胞由来T-iPS細胞を応用した治療戦略
3. 学会等名 第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋広行、坪井洋人、安部沙織、小野由湖、本田文香、安藤美樹、近藤裕也、松本功、大津真、住田孝之
2. 発表標題 シェーグレン症候群におけるM3R反応性Th1細胞由来T-iPS細胞を応用した治療戦略
3. 学会等名 第28回シェーグレン症候群学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名	Abe S, Tsuboi H, Kudo H, Ono Y, Honda F, Kurata I, Yagishita M, Takahashi H, Yokosawa M, Kondo Y, Matsumoto I, Sumida T.
2. 発表標題	Detection of circulating M3 muscarinic acetylcholine receptor reactive Th17 cells in patients with primary Sjogren's syndrome.
3. 学会等名	第63回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	安部沙織、坪井洋人、本田文香、小野由湖、高橋広行、近藤裕也、松本功、住田孝之
2. 発表標題	シェーグレン症候群患者末梢血中におけるM3ムスカリン作働性アセチルコリン受容体(M3R)反応性Th17細胞
3. 学会等名	第28回シェーグレン症候群学会学術集
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Abe S, Tsuboi H, Ono Y, Honda F, Kurata I, Yagishita M, Ohyama A, Takahashi H, Matsumoto A, Sumida T.
2. 発表標題	Detection and Clinical Significance of Circulating M3 Muscarinic Acetylcholine Receptor Reactive Th17 Cells in Patients with Primary Sjogren's Syndrome.
3. 学会等名	The 2019 ACR/ARHP Annual Meeting in Atlanta (国際学会)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Takahashi H, Tsuboi H, Asashima H, Hirota T, Kondo Y, Matsumoto I, Sumida T.
2. 発表標題	A potential role of NR4A2 overexpression in CD4+ T cells in the pathogenesis of Sjogren's Syndrome.
3. 学会等名	14th International Symposium on Sjogren's Syndrome (国際学会)
4. 発表年	2018年

1. 発表者名 Ono Y, Tsuboi H, Moriyama M, Asashima H, Kudo H, Takahashi H, Kondo Y, Matsumoto I, Nakamura S, Sumida T.
2. 発表標題 ROR γ t antagonist suppressed spontaneous sialadenitis in ROR γ t transgenic mice via inhibition of IL-17 production with increase of regulatory T cells.
3. 学会等名 14th International Symposium on Sjogren's Syndrome (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kudo H, Tsuboi H, Asashima H, Takahashi H, Ono Y, Abe S, Kondo Y, Wakasa Y, Takaiwa F, Matsumoto I, Sumida T.
2. 発表標題 Analysis of suppressive ability and its mechanisms of rice seeds expressing altered peptide ligands against M3 muscarinic acetylcholine receptor (M3R) induced sialadenitis.
3. 学会等名 14th International Symposium on Sjogren's Syndrome (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋広行、坪井洋人、浅島弘充、近藤裕也、松本功、住田孝之
2. 発表標題 シェーグレン症候群患者のCD4陽性T細胞におけるNR4A2発現亢進とTh17分化
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤華枝、坪井洋人、浅島弘充、高橋広行、小野由湖、安部沙織、近藤裕也、若佐雄也、高岩文雄、松本功、住田孝之
2. 発表標題 M3ムスカリン作動性アセチルコリン受容体(M3R) 誘導性唾液腺炎に対するaltered peptide ligand (APL)発現米の抑制効果と作用メカニズムの解析
3. 学会等名 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 住田孝之
2. 発表標題 シェーグレン症候群 vs IgG4関連疾患：似て非なる病
3. 学会等名 第27回シェーグレン症候群学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asashima H, Iizuka M, Ando M, Lai C-Y, Tsuboi H, Hirota T, Takahashi H, Matsumoto I, Otsu M, Sumida T.
2. 発表標題 The functional analysis of dendritic cells developed from T-iPS cells-derived from a single CD4+ T cell of Sjogren ' s syndrome,
3. 学会等名 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Asashima H, Iizuka M, Ando M, Lai C-Y, Tsuboi H, Hirota T, Takahashi H, Matsumoto I, Otsu M, Sumida T
2. 発表標題 The functional analysis of dendritic cells developed from T-iPS cells-derived from a single CD4+ T cell of Sjogren ' s syndrome
3. 学会等名 The 7th East Asian Group of Rheumatology (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅島弘充、飯塚麻菜、安藤美樹、頼貞儀、坪井洋人、高橋広行、松本功、大津真、住田孝之
2. 発表標題 シェーグレン症候群患者由来T-iPS細胞から誘導した樹状細胞の機能解析
3. 学会等名 第26回シェーグレン症候群学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 竹内勤、川上純、住田孝之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 268
3. 書名 シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----